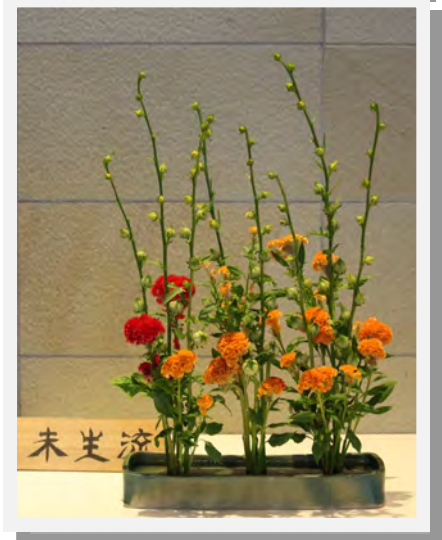
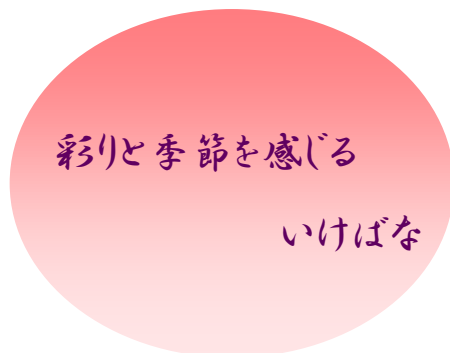


美歴だより

CONTENTS

諫早市美術・歴史館だより	
館長のつぶやき (番外編)	2
BIREKI・レポート	3
所蔵資料の紹介	4
いさはやの歴史	5
美術の部屋	6
古文書の部屋	7
お知らせ	8

Isahaya
Museum of
Art & History
Museum News
Vol.18



退任・新任のご挨拶

このたび、平成31年3月31日を持ちまして、鈴木勇次が館長を退任いたしました。新たな館長には4月1日付けで堀輝広（ほりてるひろ）が就任いたしました。

退任のご挨拶

平成26年3月1日開館の美術・歴史館へは一カ月遅れの4月1日から着任したが、地域振興とりわけ離島研究をしてきたものには、当初、美術・芸術は縁遠い感じであった。だが、屋台骨が「市郷土館」であり、郷土史にも力を注ぐという方針を知ってほっとしたものであった。

主な仕事は「館長講座」を2ヶ月に一度の開催だった。「諫早の七不思議」「諫早のすがた」をメインテーマに諫早に転がる小さな宝を探しては少々学際的視点を添えて発表させていただいた。楠のこと、十二支公園のこと、諫早石のこと、諫早銀行のこと、諫早のメディアのこと等々、随分勉強させていただいた。それにしても調査に際し多くの市民や事業所にご協力いただいた。誌上を借りて感謝申し上げる。何れ、蒐集資料を活用し、市民に役立つものを作っておきたい。

今、諫早を象徴する楠は、旧葉を押し出し新芽が力強く萌え始めている。不思議な性だ。押し出される者より妄言多謝。

平成31年3月31日
鈴木 勇次

新任のご挨拶

元号が変わることとなった年、教職員生活を定年退職し、この4月1日から本館の館長として人生の新たなステージを迎えることとなりました。

これまで本館は、諫早市ゆかりの美術、歴史、民俗等に関する資料を積極的に収集、保管、調査研究した成果を展示し市民の皆様にご利用いただけてきました。奇しくも今年は、開館から5年を経過し一つの節目を迎えていると捉えています。平成22年に策定された「建設の基本構想」としての「諫早まるごと博物館—諫早エコミュージアム構想—」を柱に据えながら、その拠点施設としての「諫早市美術・歴史館」をめざし、今後も歩みを進めてまいります。本館で諫早ゆかりの美術や諫早の歴史に触れていただき、郷土諫早に関して「学び・発見」「参加・体験」「継承する」「憩い交流する」「連携・発信する」施設として市民の皆様によって本館の価値を一層高めていただけると幸いです。

今年度も様々な企画を準備しております。多くの市民の皆様のご来館をお待ちしております。どうぞよろしく願いいたします。

平成31年4月1日
堀 輝広

BIREKI・レポート

Vol. 9 市指定文化財「唐比のくり舟」修復を終えて展示中！



からこ ぶね 「唐比のくり舟」 諫早市指定文化財

指定年月日：昭和56(1981)年7月14日

昭和49(1974)年に諫早市森山町唐比西で行われた排水工事で、水田を掘り下げていた時に見つかったもので、1本のクスノキの巨木をくりぬいて作られています。森山町唐比西は水田が作られる前は、沼地が広がっていたことから、農耕具などの運搬に使われていたと推定されています。木は乾燥により変形してしまうため、水中で保管していましたが、3年間の保存処理を経て、現在、美術・歴史館エントランスにて展示しています。クスノキの木目や削り跡なども分かり、丸木舟全体の形が分かる状態で出土された例はとても珍しいそう・・・！ぜひご覧ください！



年代測定の結果・・・
なんと！
今から約1200年前の
奈良後期～平安時代中期
(772-894年)のもの！
このくり舟に関する不思議な
伝説も一緒に展示しています！

作業風景



10tトラックでやってきました！ビニールに包まれています。



台車に載せ、振動による衝撃に気を付けながらそっとロビーまで運びます。



保護用の木枠を丁寧に解体して、展示用にととのえています。

(福井遥香)

収蔵資料の紹介

VOL.1 現川焼

江戸時代、元禄4（1691）年に現在の長崎市現川町に開窯した窯です。

当時、有田に住した諫早家の焼物被官田中刑部左衛門が現川に移り住み、焼き始めました。移住した年、刑部左衛門は名を五兵衛と改めています。窯跡は四カ所あったとされていますが、観音窯跡と鬼木窯跡が県指定として確認されています。このころ肥前では磁器が主流となっていたにもかかわらず陶器製造を志したのは、陶工というだけでなく、独自の作に対する意識が高かったことが思われます。近隣の土を原料に、白化粧土での刷毛目文様はきわめて洗練され、独自の世界をつくり出しています。その技法には白化粧土を含ませた筆を器におき、ロクロをまわしながらつける刷毛目、筆を連続して打ち付ける打刷毛目、流れるように吹き付ける吹刷毛目があります。刷毛目の上に施された花や昆虫、これらは有田という肥前の磁器生産地にいたことと無関係ではなく、そこで輸出磁器として藩の保護を得て柿右衛門らが確立した、柿右衛門様式にふれる機会は十分にあったわけで、その影響はこうしたものの描写にあらわれ、現川での製作の当初からの完成度の高さとなっています。加えて天空の広がり、薄原、葦原の見える水際、季節さえも想起させるような、奥行と広がりのある自然を写した技量にはすぐれた資質が測られます。現川焼は領内のほか大坂あたりにも出回り、代金の集金に出向いています。ほかに尾張藩上屋敷や大坂城などからも出土しており、注文に応じた製作や進物として重宝されたことがうかがえます。

現川焼はわずか60年ほどの作陶で、『日新記』の文化2（1805）年の記事には延享のころに不景気になり、寛延2（1749）年ころにはなくなっていたことが見えます。

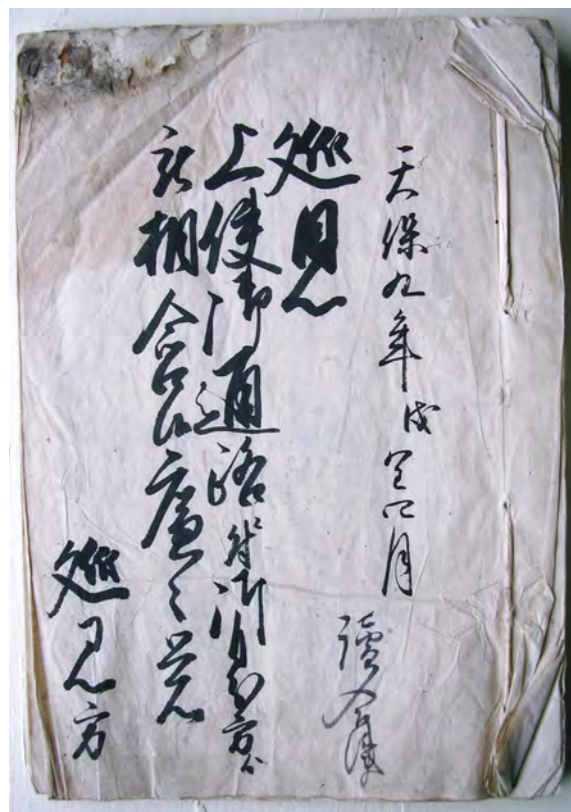
現川焼はその作風を慕う現代作家も多く、根強い人気があります。



刷毛地蜘蛛巣蝶文輪花鉢



吹刷毛地雲龍文四方鉢



縦27.0cm 横18.5cm 21丁 (館蔵)

本資料は、天保9(1838)年に巡見上使が諫早領内を通過する際にどのような受答えをするべきかが書かれたいわゆる問答集ともいえるものです。どのような内容であるかを読み下し文で紹介したいと思います。

【表紙】

天保九年戊閏四月。読合済み。

巡見上使御通路に付き、御自分方より相含められ候廉々覚え。巡見方。

【本文】

巡見上使、御休泊・宿、其外にて大庄屋・宿亭主・道案内の者、其の外へ自分方より申含めの覚え。

一諫早にて御屋敷の儀、何れの通り相唱え候やお尋ねの節は、御陣屋と相唱え、且つ、平日御在村御座なさられ候やと相尋ねられ候はば、佐嘉御城下、御座なさらる義に候、尤も長崎御奉行様、且つ、少将様(第一〇代佐賀藩主鍋島直正公)長崎御勤(長崎警備)等の節は、時々御心遣いとし

て御下りなさらるの旨、御答え申上げ候様の事。

一御親類・御家老並び郡代・代官名前、且つ、石高相尋ねられ候節は、左の通り、

御親類

知行高 千二百五十石 諫早宮内殿

同 六百八十九石余り 諫早庄兵衛殿

御家老

知行高 二百五十石 香田九郎次郎様

同 三百石 早田喜左衛門殿

同 二百七十五石 寺田大助殿

同 三百石 田中主計殿

同 二百二十五石 喜多内蔵進殿

当郷代官と相答え候様、白石代官也

同 二百十石 入江善兵衛殿

郡代

同 百石余り 中嶋十郎兵衛

代官

同 四十石余り 浦部嘉右衛門

但し、多良・湯江にては、御自分方代官名前申し答え候様の事。

一大庄屋・小庄屋並び、町別当・津別当□米相尋ねられ候はば、右は、地頭より差出に相成候由、員数の儀、相尋ねられ候はば、大庄屋は三十石、小庄屋は十石、村横目は三十石、町別当は十五石、津別当は三十石の由、尤も村の大小により、少々充の増減はこれあり候由、承けたまわり候旨、申し答え候様之事。

(以下次号)

美術の部屋

レコジャケ編

レコジャケの写真やイラスト、デザインをテーマにした「レコジャケアート展」(3/10終了)。「ジャケを手掛けた芸術家ごとに展示」という、美術館っぽい体裁をとりましたが、これだけでは壁面が埋まらないので…。急ぎよ「眼鏡ジャケ」「動物ジャケ」「宇宙ジャケ」などのコーナーを設けました。他にもこんなジャケ、あります。

★名画ジャケ (名画を引用したジャケ)

ルネ・マグリット『光の帝国Ⅱ』(写真右)をモチーフにしたジャクソン・ブラウン『レイト・フォー・ザ・スカイ』(写真左)、ドラクロア『民衆を導く自由の女神』をベースにしたコールドプレイ『美しき生命』など。



★オマーージュ ジャケ (敬愛するミュージシャンのレコジャケを引用したジャケ)

エルビス・プレスリーのデビュー作(写真左)をモチーフにしたザ・クラッシュ『ロンドン・コーリング』(写真右)、ソニー・ロリンズ『Vol. 2』をモチーフにしたジョー・ジャクソン『ボディ&ソウル』など。



★日本人芸術家ジャケ

奈良 美智『ハッピー・アワー』(少年ナイフ)、村上 隆『クラデュエーション』(カニエ・ウエスト)、草間 彌生『ラッキー』(テイ・トウワ)など。

アートとして飾ってよし、テーマを決めて集めてよし、ジャケ買いするもよし、と3拍子揃った「レコジャケの深い森」をさまよっては、いかがでしょうか?

あっ、最近の「ジャケ買い」はノラ・ジョーンズです(⇒)。



古文書の部屋

古文書の頻出用語

近世社会は現代につながる文書社会と評されることがあるほど、頻出する用語がたくさんあります。しかし似たような文言が繰り返されることが多いため、用語を覚えることでその文書の大意をつかむことも可能になります。

今回は、古文書を読むために覚えておく便利な表現の一部をご紹介します。

◎ 熟語・言い回し

- ・「畢竟」—— 読み:ひっきょう / 意味:つまり。結局。
使用例) 畢竟請取申候(たしかにうけとりもうしそろう)
- ・「慥」—— 読み:たしか / 意味:確かに。
使用例) 慥請取申候(たしかにうけとりもうしそろう)
- ・「度」—— 読み:たし / 意味:~したい。希望する。
使用例) 致度儀(いたしたきぎ):行いたいこと
- ・「乍」—— 読み:ながら / 意味:~にもかかわらず。しかしながら。
使用例) 乍恐以書付奉願上候(おそれながらかきつけをもってねがいあげたてまつりそろう)
→文書の書き出しとして頻出。
- ・「実正」—— 読み:じっしょう / 意味:間違いないこと。確かなこと。
使用例) 請取申所実正也(うけとりもうすところじっしょうなり)
→証書類の決まり文句として頻出。
- ・「急度/屹度」 読み:きつと / 意味:きびしい。
使用例) 急度叱り(きつとしかり): 刑罰の一つで、きびしい叱責。 …など

◎ 返って読む字 -助動詞-

- ・「被」—— 読み:らる / 意味:受身、可能、尊敬など多数の意味を持つ。
- ・「如」—— 読み:ごとし / 意味:~のようである。
使用例) 如此・如斯(かくのごとく): このとおり。
如件(くだんのごとし): 上記のとおり。文書の結びに頻出。
その他、「令」「不」「可」「無」「為」「奉」… …など

参考

「令和」が日本の時代を表す言葉の一つになりました。
近世の古文書のなかに見える「令」の使用例を少しご紹介します。

- ① 形容詞 読み:れい / 意味:よい。立派な。相手の親族に対する敬称。
使用例) 「令月」「御令堂」「令嗣」など
- ② 使役の助動詞 読み:せしむ / 意味:~させる。
使用例) 令停止: ちょうじせしむ
- ③ 熟語の一部
「仮(假)令 / 縦令」 読み:たとい / 意味:もし仮に。たとえ。 …など

お知らせ

発行日：平成31年4月

いけばな（表紙の写真）

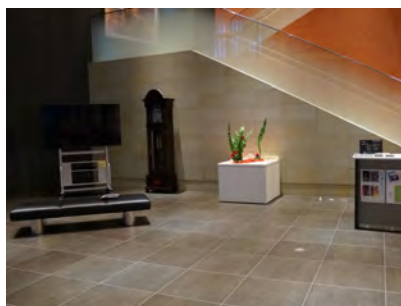
諫早いけばな連盟の皆さんのご協力で、館内エントランスホールに、開館当初からいけばなを飾っていただいております。ぜひ実際に足を運んでご覧ください。

また、美術・歴史館のホームページ『いけばなギャラリー』のコーナーで、いけばなの写真を随時掲載しております。こちらもおわせてご覧ください。

平成31年度（令和元年度）の予定

- 4月 花芸安達流
- 5月 華道家元池坊
- 6月 草月流
- 7月 未生流
- 8月 小原流
- 9月 花芸安達流
- 10月 華道家元池坊
- 11月 草月流
- 12月 未生流
- 1月 小原流
- 2月 花芸安達流
- 3月 華道家元池坊

※平成31年4月1日現時点での予定です。



エントランスホールの受付と置時計の間にあります。

貸館の利用について

美術・歴史館のホール、企画展示室、研修室はどなたでも利用できます。（要予約・有料※減免制度があります）

ただし、利用目的が美術（写真、漫画を含む）、華道、茶道及び歴史などに限られております。詳細については、お気軽にお尋ねください。

個人やグループでの作品発表、研修の場としてご利用ください。

ー編集後記ー

今回は、表紙と裏表紙のどちらも、「いけばな」について掲載しました。

開館当初から、美術・歴史館を彩り、来館者、館職員の目を楽しませ、心を癒していただいております。「諫早いけばな連盟」の皆様には、本当に感謝でございます。

今年度も、エントランスホールの「いけばな」をお楽しみに。

（野田さやか）